

DANGAN-Ladies Vol.1

今回の標題は意味不明？ ボクシングに興味のある方だけが意味がわかる、そんな標題です。頂いたチケットで観戦したら、宝物に出会ったという話です。

場所は格闘技の聖地、後樂園ホール。筆者はボクシングをあまり知りません。プロレスで有名な、ホールの空気を味わうつもりでした。1,400席が四方からリングを取り囲み、すべての視線が集まる。独特の空間です。



中嶋哲夫の「人事も歩けば」



筆者が観たのが DANGAN-Ladies。「初めての女子だけのプロボクシング興業」です。普段は男子選手の興業の合間に女性の試合がある。つまり、集客リスクを負わない。そんな女子選手が集客リスクを負う興業です。女子選手にとっては、「いつかは！」という思いが実現した興業のはず。大きな希望とリスクを背負って試合を準備したはずです。

試合は9試合。第5試合から観ました。リングの上には「隙あらば！」という緊張感が漂います。会場からは、仲間からの応援が飛びます。ついつい真剣に試合を観てしまいました。

スポーツ興業ですから、選手は3人の「敵」と戦っていたと思われれます。第1の敵は試合相手、第2の敵は観客。第3の敵は出場した他の選手。自分だけがまずい試合をすると、次の興業には出場できないでしょう。来てくれた客に「また観たい」と思わせる。そのためには、全員が充実した試合をしなければな



▲幟をかかげ、メインイベントの入場を盛り上げる花形選手の応援団

りません。「興業を成功させるため、各選手が試合順に応じて興業を盛り上げる」ことが必要です。それから思えば、目の前にいる試合相手（敵）は、大きな敵ではないのかもしれない。どの選手も、心が折れない姿を見せてくれました。その姿に、男性・女性の区別を感じず、心が動きます。

途中で、現役の世界チャンピオンが全員リングに上がりました。コメントもしました。セミファイナルとファイナルの試合では、選手を迎える幟が何本も立ちました。ファイナルに勝利し、OPBF 東洋太平洋ミニフライ級王座を獲得した花形牙美選手は、「お客さんがわくわくし、自分もわくわくできる試合をします」と宣言しました。

観客も含めて、関係者が全員で「次の興業につなぐ」という目標を、無言のうちに共有している、心地良い空間でした。

(MBO 実践支援センター代表)